

令和3年度 学校評価計画総括表

五條市立西吉野農業高等学校

教育目標	高い志をもち、広く社会や地域に貢献する自立した人材の育成					
運営方針	<p>「不撓不屈」の校訓のもと、「土に学び、土に育つ」をスローガンに定め、実学を重視した教育活動を展開する。「できないこと」が「できること」に変わる、生徒が日々成長する学校、「行きたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりを実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学び、変化する社会に対応できる確かな学力を培う。 ・他人を思いやる豊かな心を育て、人権を尊重し、社会に貢献する精神を育む。 ・健康、安全についての知識を深め、健康保持に努めるたくましい心身を養う。 					
令和2年度の成果と課題		本年度重点目標				
<p>地元農家の協力を得て、農家の圃場で実施する「総合実習」や「就労体験活動」の充実を図るため、教育課程や具体的な実施方法を再検討する必要がある。全国から生徒を募集しているが、募集定員を満たしていない。学校の魅力づくりや情報発信をさらに強化して、入学生の確保に努める。学校の移転に伴い、農業の専門高校としての農業施設や設備の整備・充実が急務である。</p>		基礎学力の定着と個に応じた進路指導を実現する。～授業の改善・実習の充実とキャリア形成～				
		安心で安全な学校づくりに努める。～開発的生徒指導と豊かな心を育てる人権教育～				
		充実した学校生活を実感できる教育活動を実施する。～学校行事の充実と部活動の活性化～				
		保護者や地域との連携を密にする。～情報発信、学校評価、地元協力農家との連携～				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	
総務部	学校行事における分掌間の連携強化	・式典における実施計画と式典に対する意識付けの徹底。 ・生徒による学校行事の活発な運営。【目標生徒アンケート 60%以上】	B	B	・コロナ対策で縮小される行事が多く、また新しい学校、新しい校舎で、模索しながらの実施となったが、学校行事の生徒充実度は83%であった。	・教務部、生徒会等と連携しながら学校行事の運営を進める。
	学校の魅力を情報発信する広報活動の充実化	・学校ホームページ及びブログの充実。【目標:週3回以上更新、アクセス数月5,000件以上】 ・「西農新聞」「広報五條」の定期刊行。【目標:年2回刊行】	A		・ブログ更新平均週4回、アクセス数は月平均6,800件を達成した。 ・今年度の新たな試みとして、西農新聞は年3回、広報五條は年2回刊行した。	・今後も安定したブログ更新、新聞の定期刊行を行う。
	育友会・同窓会・地域との交流	・育友会・同窓会活動の充実。 ・ふれあい健康祭、幼稚園交流等、機会に応じて交流を図る。【目標:年6回】	C		・記念碑を建立し、同窓会を新たに立ち上げることとなった。今後、新役員構成を考えていく。 ・コロナ対策のため幼稚園交流は1回のみ実施。	・育友会活動の見直し。 ・新規の交流先を開拓する必要がある。

教務部	各科目において基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	到達度が不十分な生徒に対し、達成目標と取り組みの方策を確認し、学力の充実、技術の深化を図るため、放課後を利用して積極的に補習を行う。	B	B	各教科、長期休業中を中心に補習を実施した。また、定期考査前に補習をした教科もあった。さらに生徒の学習意欲を高め、学力を向上させるために、観点別評価の結果もふまえ、方法を検討していく必要がある。	<p>・各教科において本年度の成果と課題を踏まえて、達成目標と学習指導について年度初めに十分検討する。また、観点別評価の実施に向けて評価基準を完成していく。</p> <p>・各教科において、基礎学力の底上げに向けた指導方法の工夫、協働体制の確立を引き続き図る。</p>
	個性を生かし多様な人々との協働を促す教育を推進する。	校外での実習や競技会・イベント等に積極的に参加する意欲をはぐくみ、顕著な成果をあげる。	B		各種行事・競技会、農業クラブの大会やビジネスプランコンテストにおいて素晴らしい成果をあげた。ホームページ・ブログによる紹介や、報道機関による取材の積極的な受け入れも行っている。本年度も先進農家や研究機関によるとの共同企画も実施された。	
	学習指導力の向上を図る。	授業を公開する機会を設定し、多くの授業を参観することで学習指導の研究を行う。また、観点別評価の実施やアクティブラーニングについての研究を進める。	C		校内での授業公開期間は設けられなかったが、農業科学習指導研究会の公開授業が開催され、学習指導上の課題や成果等の情報交換が効果的に行われた。各教科で具体的に観点別評価の実施を進めている。	
生徒指導部	規範意識の向上	全体指導、個別指導、家庭との連携を通して、服装・生活態度・礼儀・挨拶・時間の厳守など日常生活に関わる基本的ルールを守る姿勢を育てる。	B	B	各担任とも日頃から家庭との連携を深め、問題行動が起こった際も、スムーズに対応できた。基本的ルールも少しずつ守れるようになってきた。	問題行動が起こる前に生徒の様子を観察し、寮や家庭との連携をさらに深め、生徒指導部会を充実させ、全教職員に徹底させるようにする。
	いじめ防止	いじめの防止等のため基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見、いじめに対する措置に組織的に対応する。	B		今年度は前期、後期と2回実施し、少しでも何か訴えている生徒全員に聞き取りを行い、未然に防げることが出来た。	今後は各諸機関と、より密に連携し、生徒の心のケアを充実させ、いじめのない学校づくりを目指していきたい。
	安全教育	危機管理や安全についての意識を高め、防犯や不審者の対応について、学期ごとに確認点検をする。	B		今年度は五條警察から薬物乱用と交通安全について、また秋にはネットによるトラブルから事件に起こるまでの講演を企業に依頼した。危機管理も不審者対応が出来なかった。	今後は災害やコロナ渦での生活で学校生活も変わってくるように思う。生徒が安全に生活できる場になれるように、様々な角度から安全について考えていく。
進路指導部	計画的な進路指導	進路の模索を1年生から行い、準備を計画的に行う。【目標 生徒アンケート(4年生)「自分の希望する進路実現ができた」80%以上】	A	B	進路の第一希望に合格出来なかった生徒は4名であったが、それらの生徒を含め、概ね希望する進路を実現できた。	進路ホームルームを充実させ、より早い段階から進路について考える機会を設ける。
	自己分析の徹底	自分が何に興味を持ち、どのような特長を持つのか知ることで進路の選択に活かす。【目標 職業適性検査受検 100%】	B		2年生では職業適性検査を全員受検した。1・3年生では、就職活動用冊子を利用して、自己分析を行った。	自己理解を深めるべく、職業適性検査や農家実習での経験を有効に活用する。
	適切な勤労観の醸成	インターンシップや農家実習での交流、および、その振り返りによって適切な勤労観を育む。【目標 参加記録簿の記入 100%】	B		農家での実習により、自分の適性や特長について考える機会を得ている。また、実習後の記録簿については、特定生徒の提出が悪い場合もあった。	進路の模索に生かせるよう、農家実習により得た機会の重要性を認識させる。

人権教育部	①人権感覚を育てる	授業やホームルーム等を活用して、人権に関する理解を深め、他人を思いやる心など豊かな人権感覚を育む。 【目標 人権HR年間5回以上】	B	B	授業、HRだけでなく、様々な活動をととして、人権感覚を育む取り組みを、先生方にすすめていただけた。【本年度の人権HR実施回数は4回】	各分掌、学年、教科科目において、人権教育をすすめる上での目標を設定してもらう。
	②安心できる環境作り	教員と生徒の信頼を深め、ひとりひとりが互いの人権を尊重し、安心して学校生活を送れる雰囲気作り努める。 【目標 アンケート項目「いじめや差別を許さない学校づくりに取り組んでいますか。」の回答で、「そう思う」80%以上】	B		生徒・保護者の思いを大切にしながら、学習指導や生徒指導に取り組もうという雰囲気が教員間に醸成されている。 【アンケートの回答で、「そう思う」は74%】	日頃から教員・生徒間で、お互いを大切にしていこうと感じられる思いやりのある言動ができてきているか、自分自身で点検していく必要がある。
	③生徒を支援する体制作り	他分掌と連携し、支援を要する生徒について職員間で情報共有を行い、全職員で支援する体制づくりに努める。 【目標 年度当初に新入生の情報を集約し、共有する】	B		特別支援教育コーディネーターである養護教諭に人権教育部に入ってもらい、情報の共有に努めた。 【年度当初に新入生の情報を共有できた。】	情報の共有だけでなく、要支援生徒への対応について、研修会を行うことも検討する。
保健体育部	体育行事への参加推進	体育行事の内容や時期などの精査を行い、また、運営などに生徒を積極的に参加させることにより、参加意欲の推進を図る。【出席率90%以上】	A	A	生徒の参加意欲も高く、欠席もほとんどなかった。生徒主体で行事を実施したが、ほとんどの生徒が役割についてしまうのが課題である。	生徒と教員の役割のバランスを取ることや、グループ分けをして時間帯ごとに役割にあたらせる。
	食育指導の徹底	欠食アンケートの実施や体カテストのアンケートをもとに、食習慣の実態を把握し、関係教科や昼食指導、三者面談での家庭連絡などで、食育の推進を図る。	B		欠食率は25%であった。寮生が多く、給食もあるので、今後は10%未満を目指したい。アンケート調査をこまめにおこなうことも課題である。	三者懇談に、資料として保護者に提示できるように、アンケート調査を複数回、各個人の実態が把握できるようおこなう。
	校内環境衛生管理の徹底	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底やその他感染症の蔓延を防止するために、手洗い場の衛生維持、消毒液の設置数の増加や補充などを徹底して行う。	A		学校生活における指導の徹底や、委員会活動でハンドソープ、消毒液の補充などこまめにおこない感染症が蔓延することはなかった。	運動時、実習中のマスク着用の徹底や、休み時間中の過ごし方、昼食時の黙食等に関しても習慣化していく。
第1学年	学習習慣の確立	毎時間の授業の大切にするように促す。課題を確実に行うように指導する。 【目標 途中入室1人3回まで。】	B	B	80%以上の生徒が授業に集中して取り組んでおり、課題についても80%以上の生徒が提出する。	当たり前授業をうけることができることの大切さについて講話する。
	生活習慣の確立	あいさつの大切さを強調し、時間を守ることや正しい服装の着こなしができるように指導する。 【目標 毎朝のSHRで服装点検する】	B		80%以上の生徒が挨拶をすることができるようになった。服装については徹底できていないこともある。	自分から挨拶をして声をかける。正しい着こなしについて伝える。
第2学年	①生徒のいきる力の育成を図る。	生徒の自立を目指し、いきる力を育成するために、身近な問題について指導を行う。 【1日平均 1回】	B	B	HRを活用して、身近な話題から指導が行え、いきる力について考えるきっかけにはなった。	継続して生徒が自主的に考えるような、指導のテーマを用意していく。
	②生徒の規範意識の向上を図る。	生徒の規範意識の向上を図るために、態度や服装などの指導を行う。 【1日平均 1回】	B		指導を行えば、直ぐに態度や服装などを直すようになった。	委員会や学級委員を中心に、生徒が自主的に規範意識を向上できるように、明確な役割をもたせる。
第3学年	規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせ、また、場をわかまえ、他者を思いやる言動ができるようにする。	B	B	全体的に正しい礼ができるようになってきたが、中には毎日繰り返し同じ注意をする生徒もいる。	担任だけでなく、授業を担当する先生全体の協力が必要。
	進路目標を具体的にさせ、その実現に向けて主体的に取り組めるよう支援する。	農業実習を通して進路に関する希望や意志を随時確認する。インターンシップやオープンスクールに参加させる。 【目標 各自1回以上】	B		目標が決まっている生徒がいるなか、進路に向けてまだ具体的なイメージができていない生徒がいる。	個人的な声かけ、または保護者との連絡を密にとり、進路決定につなげる。

第4学年	進路の決定	進路に関しての面談や指導をきめ細やかに行い、生徒の意思に寄り添った進路実現ができるよう進路面談、進路活動等 月2回以上を目標に努める。	B	B	目標は達成し、生徒の意思や特性に応じて進めたが、家庭と本人のずれ違いが少し見られた。また、本人も自己理解が進んでいないことが目立った。	家庭とも密に連絡を取ったり、本人の自己理解が進むような活動内容も増やしていく。
	生活習慣の確立	社会人、学生になることを見据え、基本的な生活習慣の確立や挨拶、マナー、身だしなみなどについての指導を徹底して行う。	B		遅刻や欠席に関して、一部の生徒の乱れが目立った。体調管理の甘さがなかなか改善されないケースもあったが、ある一定の成長は見られた。	課題や授業以外での活動を増やし、登校にもっと意味をもたせることや、遅刻・欠席の重大さを理解させる。
農業科	安全・安心な農場作り	生徒の安全を確保し、安心して実践的・体験的な学習活動を行える農場作りに努める。 【目標 実習での事故0件】	A	A	校舎の移転により、新たな農場作りを行っているが、大きな事故やケガもなく、学習活動を行えた。	新しく設置したビニルハウス等、校内の設備を十分活用できるような栽培計画を立てる。
	農家実習での深い学び	農家実習後、毎回、記録簿によって学んだ知識や技術を整理させるとともに、思考力、表現力を育成する。	B		記録簿の提出状況について、2学期までは、不十分である生徒が見受けられた。	学んだことを振り返る重要性を認識させるべく、最後に記録簿を見返す時間を作る。
	農業クラブ活動の活性化	各競技会やコンテストへの参加により、農業に関する課題を合理的かつ創造的に解決する力を育む。【目標 参加人数のべ15名】	A		県連盟大会では、プロジェクト発表会に6名、意見発表会に2名が参加した。日本政策金融公庫主催ビジネスプラン・グランプリでは、8名の生徒が参加し、入賞した。	専門科目に農業クラブ活動での取組や成果を取り入れ、生徒の興味関心を高める。